

取組事例の名称		農地除染対策実証試験（その4）工事	
概要	対象	農地における適正な除染方法の実証試験	
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input checked="" type="checkbox"/> その他（農地汚染）	
	規模	圃場除染 6ha 畑除染 4ha 農道除染 1,355m 水路除染 1,835m	
	実施会社	西松建設(株)	
	実施場所	福島県 川俣町	
	発注者	農林水産省 東北農政局	
<p>1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称</p> <p>名称：スキマー工法、ターフストリッパー工法</p> <p>事前調査の結果、表面から3cmに95%のセシウムが付着している。そのため、効率良く3cmを削り取るために、スキマー工法とターフストリッパー工法を採用した。</p>			
<p>2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果</p> <p>スキマー工法については、センサーで5ミリ単位で厚さ管理が出来るため、3cm削り取り作業の精度を向上出来る事を期待した。</p> <p>ターフストリッパー工法についても1cm単位で厚さ管理する事が出来るため、3cm削り取り作業の精度を向上出来る事を期待した。</p>			
(写真、イラスト)			
			
ターフストリッパー工法		スキマー工法	

取組事例の名称	農地除染対策実証試験（その4）工事
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦勞した事柄・教訓</p> <p><u>課題</u>：二次汚染の拡大</p> <p>除染作業にあたり、セシウムに汚染された土砂が重機に付着し、重機の移動による汚染範囲の拡大が懸念されたが、重機自体をエアーなどによる除染作業で、二次汚染を防止出来た。</p> <p><u>苦勞した事柄</u>：圃場面を荒らさずに施工する。</p> <p>表面に付着しているセシウムを下層に潜り込まないように、圃場の水切りを行わなければならない。適切に水切りを施さなければ、圃場が乾かず工程の遅延になる。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>事前調査により、除去後の予測数値と施工後の数値は類似しており、計画どおりの除染を行う事が出来た。地権者にも説明会により数値を示したが、なかには、「セシウムが0でなければ受け取らない。」という方もおられた。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>ターフストリッパー工法については、取り返し防止方法の検討、消耗頻度の大きい刃は、硬い刃の製作等の改善が必要である。スキマー工法については、現場に則した削り厚さを設定できれば、精度の高い除染が可能である。今後、大規模除染に向けて、多くの面積を施工出来る機械の開発や、規模に応じた機械の確保が重要となるであろう。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>除染作業に対し、作業員の確保・重機の確保などが困難となっている。作業員を確保しても、宿泊施設の不足や碎石等の材料の不足も懸念される。また、作業員や資機材の不足により、賃金・リース料の増加の傾向に歯止めがかからない状態である。</p>	
NETIS登録	